

環境パフォーマンス指標ガイドライン改訂ワーキンググループ報告

1. 開催の概要

ワーキンググループの会合は合計 4 回開催し、EPI を中心に環境報告書の記載項目の個別の内容について討議を行った。

2. 記載分野の区分及び各分野の個別の記載項目の考え方

2003 年版の記載項目の構成を見直し、以下 5 つの分野に再構成した。

(1) 基本的事項 (BI) : 従来の基本的事項に加え、環境報告書の概要に関する記載項目を纏めた。

(2) 環境マネジメント等、環境経営に関する状況 (MPI を含む) :

環境マネジメントなど、主に定性的な情報が中心となる記載項目を纏めた。記載する個別の情報・指標は、「方針、目標、計画、取組状況、実績」を基本とし、必要な情報・指標を追加することにした。

(3) 事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況 (OPI を含む) :

記載項目としては環境パフォーマンス指標ガイドラインのコア指標を踏襲した。個別の情報・指標は、低減対策の取組みに関する「方針、目標、計画、取組状況、実績」及び定量データを基本とした。

(4) 環境効率指標 (EEI) : 事業者等で取組が進んでいるものの、共通指標について開発段階であることから、指標の基本的な考え方と事例を示し、経済価値と環境負荷の関連を示す情報・指標を記載項目とした。

(5) 社会的取組の状況 (SPI を含む) : 既発行の環境報告書では社会的活動の状況に関する情報開示は一般化されているが、共通の情報・指標については研究途上にあることから、2003 年版の記載内容を見直し、情報・指標を列挙するにとどめた。

3. 記載項目の追加

2003 年版の記載項目に加えて、環境報告書の活用性の向上を図るための項目及び社会的に関心が高いと考えられる項目として以下の 5 項目を追加した。

- ・ BI-2-2 : 報告範囲と環境負荷の捕捉状況
- ・ BI-4-1 : 主な指標の一覧 (BI)
- ・ MP-4 : 環境に配慮した金融情報
- ・ MP-9 : 生物多様性の保全への対応

- ・ OP-4：循環的利用の物質量等

4. バウンダリー

報告の範囲は連結決算対象範囲全体を基本とするも、単体から段階的に拡大することを推奨した。

5. その他